

# パネルディスカッションⅡ

発達障害者の就労支援を進めるために  
～支援の手助けをするツールの活用～

## 【司会者】

高瀬 健一

(障害者職業総合センター 主任研究員)

## 【パネリスト】(五十音順)

小田 訓

(島根障害者職業センター 所長)

柏木 真司

(NPO 法人ウェルコミュニティ飛騨 理事長)

馬場 明日香

(株式会社 Kaien 就労移行支援事業 Kaien 横浜 サービス管理責任者)

## 発達障害者の就労支援を進めるために

～支援の手助けをするツールの活用～

障害者職業総合センター  
主任研究員 高瀬 健一

発達障害のある者の支援については、それぞれに課題が異なり、またその障害特性の多様さも加わり、支援者はどのように支援したらよいか悩むことも多いと思われます。一方で発達障害のある者の就労の現状は、賃金、賞与、就業形態及び労働時間並びに勤続年数等の雇用形態・待遇等労働条件において、一般労働者と比較すると、厳しい状況に置かれており、離職率も高いことから雇用の安定という観点から様々な問題を内在し自立した生活を送りにくい状況にあることが当研究部門の調査研究からわかったところです（調査研究報告書 No. 125 「発達障害者の職業生活への満足度と職場の実態に関する調査研究」）。

このパネルディスカッションⅡでは、正に「今ここ」の困難性を受け止めて、未来志向で就労支援を考えていこうと思います。パネリストとして、求職中の発達障害のある者に特化した就労移行支援を首都圏中心に展開している事業所の方、発達障害を含む幅広い障害者に対して就労支援から生活支援まで行っている立場で当機構が作成したツール等を活用されている事業所の方をお招きしました。それぞれの実践についてご報告いただくとともに、当機構の地域障害者職業センターの立場から発達障害者の就労支援を円滑に進めるためのツールの活用と関係機関からのニーズを中心に報告いたします。

ディスカッションでは、これからの発達障害のある方への就労支援について、①求職活動及び職場定着にかかる支援のポイント、②アセスメントにかかるツールの共有化等、③研究開発へのニーズの3点を中心に多面的に討議を進めます。